

			3			2		1
5	4	2	1	5	4	2	1	④
わ ----- る ----- 口	I 4 イ	① 2 ウ	A 1 ウ	ア 5 2	て ----- き	※2 2 夕	A 1 イ	① 1 人魚
	II 4 ウ	② 2 イ	B 1 ア	イ 5 1		夕 ----- と	B 1 エ	② 1 大い
			C 1 イ	ウ 5 1		3 I 3 ね	C 1 ア	⑤ 1 中止
						3 II 3 さ		③ 1 正午
		※3 3 お						
		か						

		と						

		う						

配 点	
1	各2点 × 5 = 10点
2~3	各5点 × 18 = 90点
<計> 100点	

① 小学校2年生までに学習した漢字から出題している。①「魚」の上の部分カタカナの「マ」のようにしないこと。②「多」としないように気をつけよう。「大いに」は「十分だと思おうまで。こころおきなく」、「心からそう受け止めるさま」、「可能性が高いさま」という意味がある。③「午」を「牛」としてしまわないように気をつけること。「午」は十二支の「うま」で、時刻だと昼の十二時を表す。「午」よりも前は「午前」、あとは「午後」である。④「画」の部首は七画目と八画目で「うけばこ」という。「家」の最後の二画を続け字にしないようにする。⑤「止」をうっかり「上」と書いてしまわないように気をつけたい。

2

- 1 A (A)の前ではすみがつくられる場所を述べていて、あとではすみのはき出されかたが続けて述べられていることから、イの「そして」がはいる。
- B (B)の前にある内容を否定して、本当のことを (B) のあとで述べているので、エの「じつは」がはいる。
- C (C) の前後でタコのすみとイカのすみの性質やはたらきがくらべられているので、アの「いっぽう」がはいる。
- 2 「あれは、きにおそれそうになったとき、自分の身を守ろうとしているのです」から「あれ」はてきから身を守るためにすることだと見当をつけてさがそう。
- 3 ③の文にイカのすみとタコのすみの対比があるので、本文でもイカのすみとタコのすみの対比がないかさがすと、最後の段落にイカのすみの性質が、ひとつ前の段落にタコのすみの性質が書かれている。あとは字数をてがかりに () にはいることばをさがそう。
- 4 「いざというとき」の続きを見ると、『ろうと』から外へはき出されます」とある。はき出されるのは「すみ」でその目的はてきから身を守るためであったことからさがしていくと、本文一行目に「てきにおそれそうになったとき、自分の身を守ろうとしているのです」とある。
- 5 ア タコもイカもすみは「ろうと」から外へはき出され、続けて「このろうとを口だと思っている人が多いのですが、じつは、そうではありません」とあるのであわない。
- イ 本文後ろから二つめの段落にタコのすみの性質やはたらきが述べられている。ここに「てきの目をくらませて、そのすきににげるのです」とあるのであっている。
- ウ 本文最初の段落に書かれていることにある。

3

- 1 A (A) のあとの内容から、やよいがお昼になるのを待っていたと受け取れるアの「やっと」ははいらぬ。おべんとうがとどいていないのにお昼になってしまったのだから、ウの「どうどう」がはいる。
- B 待ちかねていたおべんとうがとどき、みんなといっしょにおべんとうを食べられるようになったやよいの気持ちを考えると、アの「やっと」がはいる。
- C (C) の前にある「あんまり大きな声」のせいで、みんなの目がやよいにあつまったことをイメージすると、イの「ざっと」がはいる。
- 2 ① やよいはおかあさんがおべんとうをとどけてくれるのを待っていた。そのおかあさんがきて、お昼にまにあったと思っただけである。
- ② 先生の大きな声のせいでみんなの注目をあびってしまったことから考えると、エの「てれくさい」ではなく、イの「はずかしい」だろう。
- 3 直後の「こんなおべんとう」はやよいの「おべんとうやさんのおべんとう」である。ではほかのみんなのおべんとうはどんなおべんとうだったのかと考えると、問題用紙二枚目の本文五〜六行目に「おかあさんがつくったおべんとう」が見つかる。
- 4 I 「首をふる」は「たてに」であれば「承知する」、「横に」であれば「承知しない」の意味になる。「だめだなあ……子どもにもたせて」という先生のことばから子どもに手作りのおべんとうをもたせていないことに納得できていないことが、読み取れる。
- II おとなしいやよいが先生に不服を申し立てたことから考える。気持ちが高まって、「どかどか」なところはウの「むね」だろう。
- 5 先生は何を言ったのか。やよいのおかあさんの「わる口」であった。